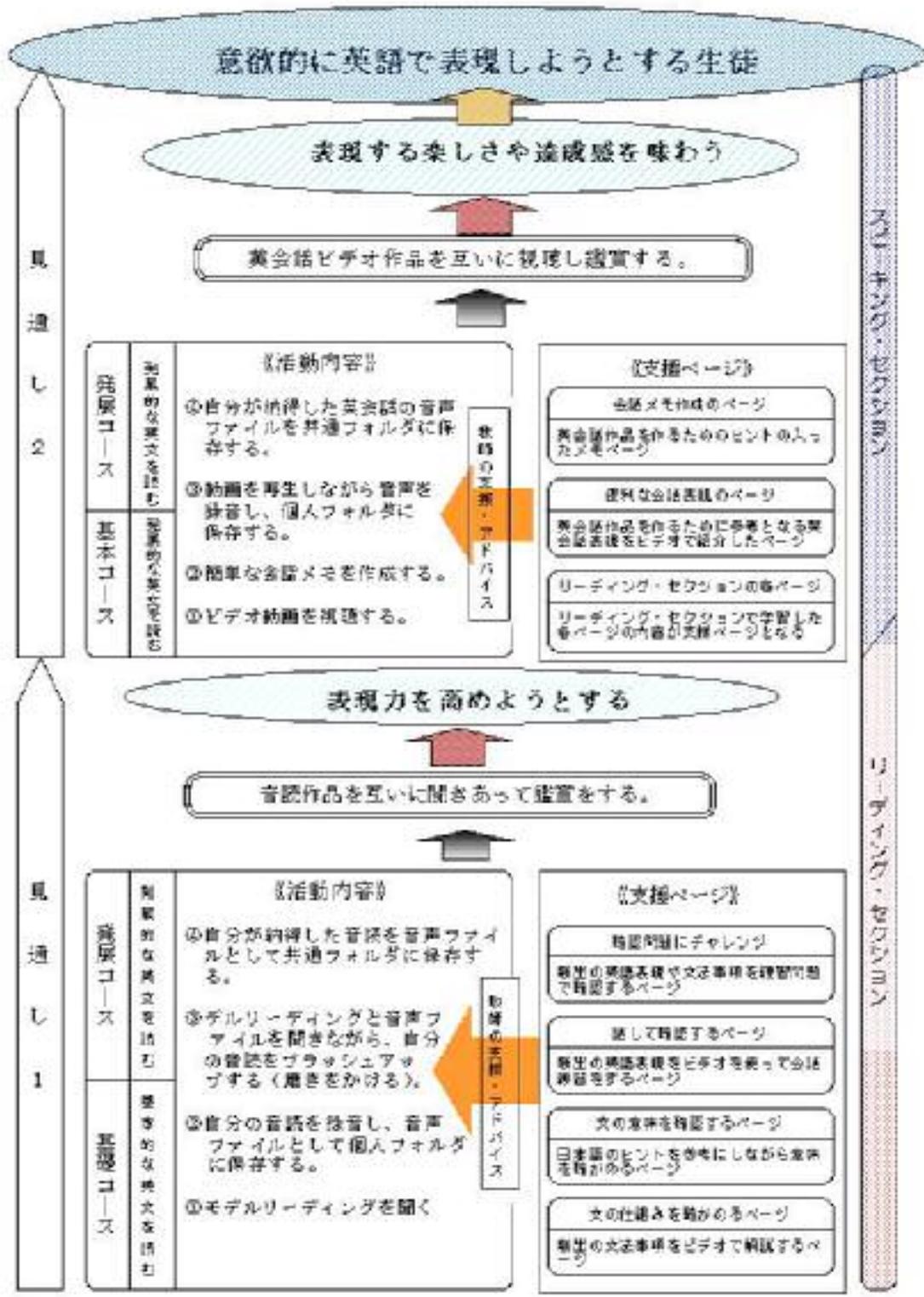


## 資料編

- 1 全体構想図・・・・・・・・・・286
- 2 評価規準・・・・・・・・・・287
- 3 指導計画・・・・・・・・・・288
- 4 教材作成について・・・・・・・・289
- 5 指導案・・・・・・・・・・297

1 全体構想図



研究の基本構想図

2 評価規準

	ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
聞くこと	(言語活動への取組) ①興味をもってモデルリーディングや他の生徒の作品を聞いている。		(適切な聞き取り) ①他の生徒の音読や英会話ビデオ作品の表現の工夫を聞き取ることができる。	(文化についての理解) ①日米の表現の発想の相違を理解している。
話すこと	(言語活動への取組) ②表現力豊かに音読したり、話したりしている。	(適切な発話) ①画面の動きにあわせ、適切な速度や声の大きさで話すことができる。		(言語についての知識) ②場面や状況による音声の違いを知っている。
読むこと	(言語活動への取組) ③英文の内容に関心をもち、支援ページを活用しながら興味を深めようとしている。	(正確な音読) ②発音やイントネーション、速度などに気を付けて音読ができる。	(適切な読み取り) ②英文の内容を正しく読みとることができる。	(文化についての理解) ③コミュニケーションにおける挨拶、聞き返しなどの決まった表現を理解している。
書くこと	(言語活動への取組) ④会話の内容を工夫してメモをしている。	(正確な筆記) ③語句、表現、文章形式を正しく書くことができる。		(言語についての知識) ④場面や状況にふさわしい語句や言い回しを知っている。

### 3 指導計画

過程	時間	学習活動(①~⑬)	<p>□支援及び指導上の留意点 (○主に活用する支援ページ ※「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)</p>	<p>○学習活動における具体的評価規準 【単元の評価規準との関連】 (B)「おおむね満足」 (A)「十分満足」 (評価方法)</p>
リーディング セクション 【見直し1】	1	<p>①モデル・リーディングを聞く。 ②支援ページを使いながら英文の内容理解をすすめる。 ③自分の音読を録音し、音声ファイルとして個人フォルダに保存する。 ④モデルリーディングと音声ファイルを聞き比べながら、音読をブラッシュアップする(磨きをかける)。</p>	<p>□コンピュータの画面上の操作について、活動の順を追って説明することで、理解しやすいものにする。 □コンピュータの操作についてどの生徒も操作を正しく行えることを確認する。 □自分の音読はすべて個人フォルダに保存し、削除しないよう伝える。 ○「文のしくみの説明を聞くページ」、「本文の意味を確認するページ」、「話して確かめるページ」、「練習問題のページ」 ※活動が滞りがちな生徒には、声かけをしたり、音読をしてみせたりすることで活動できるようにする。</p>	<p>○モデルリーディングを聞いたり、自分の英語を録音して聞く活動に興味をもっている。 【アの①、②】 (B)モデルリーディングと自分の音読を繰り返し聞いている。 (A)気持ちや感情を込めて音読している。 (学習活動の観察、音読ファイル、自己評価カード)</p>
	2 3	<p>①~④の活動を繰り返して行う。 ⑤自分の納得した音読を1つ選び、共通フォルダに保存する。</p>	<p>・支援ページを有効に用いているかどうかを確認し、有効に活用するよう促す。 ・保存された音読ファイルを開き、改善点についてアドバイスを与える。 ・進度の速い生徒には、発展コースに取り組むよう促す。 ○「文のしくみの説明を聞くページ」、「本文の意味を確認するページ」、「話して確かめるページ」、「練習問題のページ」 ※支援ページを効果的に活用できるようアドバイスを与える。</p>	<p>○なめらかに音読できる。 【アの②③、イの②、ウの①、エの①②】 (B)つまることなく相手に分かるように音読できる。 (A)感情を込めて正しく音読できる。 【ウの①】 (学習活動の観察、音読ファイル、自己評価カード)</p>
	4	<p>⑥最初に録音した音読と、最後の音読を聞きくらべる。音読作品の専用ページを全員で見ながら教師のコメントを聞く。 ⑦自分の音読練習を振り返ったり、他の生徒の音読作品を聞いた感想を書く。</p>	<p>□自分の最初の音読と、最後の音読を聞き比べさせることにより、練習の成果を感じ取らせる。 □音読を聞きあいながら、作品の良さを見つけ、音読をした生徒にそれが伝わるようなコメントカードを用意する。 ※教師のコメントを聞いたり、感想を書かせることで、表現力を高められたことを感じ取らせる。 ※良さを見つけられるように、発音や音読の表情などの視点を与える。</p>	<p>○他の生徒の音読作品に興味をもって聞いている。 【アの①、ウの①、エの②、④】 (B)コメントを書くことができる。 (A)良さを二つ以上見つけることができる。 (音読作品、アンケート)</p>
	スピーキング セクション 【見直し2】	5	<p>⑧ビデオ動画を視聴する。 ⑨支援ページを使ったり、教師と相談しながら会話メモを作成する。 ⑩動画を再生しながら音声を繰り返し録音し、ビデオ作品を作りあげる。作品を視聴しながら英会話をブラッシュアップする。</p>	<p>□コンピュータの画面上の操作について、活動の順を追って説明することで、理解しやすいものにする。 □コンピュータの操作についてどの生徒も操作を正しく行えることを確認する。 □机間支援してメモ作成のアドバイスをし、表現に工夫ができるようにする。 ○「英会話ビデオ作品の作り方のページ」、「便利な会話表現のページ」、「リーディング・セクションのページ」 ※支援ページを有効に用いているかどうかを確認し、必要があればリーディングセクションの内容を復習するようにアドバイスする。</p>
6 7		<p>⑧~⑩の活動を繰り返して行う。 ⑪自分の納得した英会話の音声を1つ選び共通フォルダに保存する。</p>	<p>□進度の速い生徒には、発展コースに取り組むよう促す。 □会話メモを使いながら繰り返し練習し、せりふが自然と出てくるまで、何度も繰り返し練習するよう励ます。 ○「英会話ビデオ作品の作り方のページ」、「便利な会話表現のページ」、「リーディング・セクションのページ」 ※英文作成時に、表現の工夫しようとする気持ちをくみ取りながら正しい英文完成に導く。</p>	<p>○自然な英語を話している。 【アの②④、イの①②③、エの④】 (B)ビデオ動画にあわせて英語を話している。 (A)気持ちを込めて英語を話している。(学習活動の観察、会話メモ、音読ファイル、自己評価カード)</p>
8		<p>⑫英会話ビデオ作品の専用ページを全員で見ながら教師のコメントを聞く。 ⑬全活動を振り返り、感想を書く。</p>	<p>□作品の英語が聞き取れない場合は、繰り返し聞くことができるようにする。 □教師のコメントを聞くことで、活動への達成感を得られるようにする。 □活動を振り返りながら感想を書くことで、英語で表現する事の楽しさを味わえるようにする。</p>	<p>○他の生徒の作品を理解することができる。 【アの①、ウの①】 (B)コメントを書くことができる。 (A)良さを二つ以上見つけることができる。(英会話ビデオ) ○英語で表現することの楽しさに気づいている。【アの①②③】 (B)英語表現活動に楽しく取り組んでいる。 (A)英語で表現する楽しさを言葉に表している。(アンケート)</p>

#### 4 教材の作成と活用について

##### (1) 教材の作成について

###### ① ウェブページについて

本教材は主にウェブページにより構成されている。教材は IBM ホームページビルダー ver.6.5 を用いて作成した。学習者が利用しやすいように工夫した点は以下の通りである。

- ・ ツリーを表示することにより、支援ページを参照しやすいようにした。
- ・ 「代替テキスト」を利用することにより、学習者がバナーや画像の上にカーソルを置くと、学習上のアドバイスが表示されるようにした。



トップページ(左のフレームがツリー)

- ・ 題材の中で取り扱われている国や文化について、関連するホームページをリンクし、興味・関心に基づいて参照することができるようにした。

###### ② 音声について

基礎コースの音源は、指導者用に市販されているモデルリーディングの CD を加工して作成した。発展コースの音源は、ALT の吹き込みにより作成した。なお、モデル・リーディングの音声は Digi-On Sound ver.3 で読み込み、必要な部分だけを音声ファイル (wave file) として出力・保存し、教材の用途に合わせて利用した。学習を効果的にするために工夫した点は以下の点である。

- ・ 音声加工機能のうち「タイムストレッチ機能」を使い、モデルリーディング・セクションの学習ページでは、モデルリーディングのスピードを「とてもゆっくり」「ゆっくり」「ふつう」の3段階で聞くことができるように設定した。
- ・ 会話文の特定の人物の音声レベルを下げて加工することにより、特定の人物のセリフ部分だけが無音状態の音声ファイルを作成した。

###### ③ 動画について

デジタルビデオカメラで撮影したビデオを、ビデオ編集ソフト Mega DV2 で編集し、Mpeg1 で書き出しを行った。書き出した動画は、ウェブページ上に貼り付け、学習者がクリックすれば動画や音声再生されるようにした。スピーキング・セクションでは、生徒が作成した音声ファイルと動画をミキシングするが、これも同じソフトを利用して作成した。学習を効果的にするために工夫した点は以下の点である。

- ・ 必要に応じて英語や日本語のテロップを画面に挿入した。
- ・ 効果音や画像素材を活用することで、作品をより魅力的なものになるようにした。

###### ④ 個人フォルダについて

生徒がアクセスできるサーバー上に教科のフォルダを用意し、その中に個人用フォルダと共用のフォルダを用意した。両方のフォルダに全員分のフォルダを作成し、共用のフォルダは自分の名前以外はアクセスしないよう伝えた。

## (2) 教材の活用について

### ①リーディング・セクション

リーディング・セクションでは教科書の文と、教科書の文に発展的な内容を盛り込んだ文を扱う。学習するための画面は教科書のページをスキャンして使用し、違和感なく学習に取り組めるようにした。ページの様々な部分をクリックすることで、学習者はヘッドフォンを通してモデルリーディングを聞くことができる。このページで学習者が再生できるモデルリーディングは以下の4通りである。

- ・「全文を通して聞く」のボタンをクリックすると、ALT が音読している動画を視聴することができる。また、この他に、「とてもゆっくり」、「ゆっくり」「ふつう」の3つのボタンが用意されており、3段階のスピードで音読を聞くことができる。

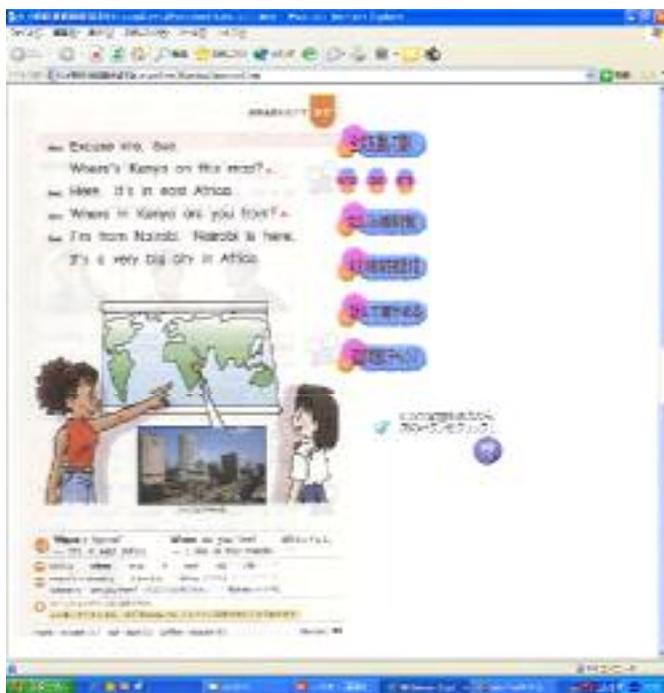
「ふつう」の速度を100%とすると、学習者は自分の力にあわせ、「とてもゆっくり」では70%の速度で、「ゆっくり」では85%の速度でモデルリーディングを聞くことができる。

- ・画面上の文をクリックすると、その文のモデルリーディングの音声聞くことができる。
- ・画面上の新出単語をクリックすると、その単語のモデルリーディングの音声聞くことができる。
- ・登場人物の絵をクリックすると、画面上の会話が聞こえるが、その登場人物の音声のみ無音で再生されるため、その人物に成り代わって会話練習ができる。

このセクションではモデルリーディングを聞きながら音読練習を行う。音読練習にはwindowsXP に標準的に組み込まれているサウンドレコーダーの機能と、マイクフォンを使う。サウンドレコーダーを使うと、マイクフォンを通して話した音声を録音することができる。学習者は、英文を音読して録音し、サーバー上で各自に割り当てられた個人フォルダに保存する。自分の音読した英文と、モデル・リーディングを聞き比べながら、自分の音読をブラッシュアップ（磨き上げ）する。このブラッシュアップを繰り返し、学習の最終段階では自分が納得できた音読を共通フォルダに保存して発表する。

このセクションの学習において、教師は学習者に支援ページを効果的に活用するよう促したり、個人フォルダに保存された音読を聞き、適切な助言を与えたりする。

### 《リーディングセクションの学習ページ》

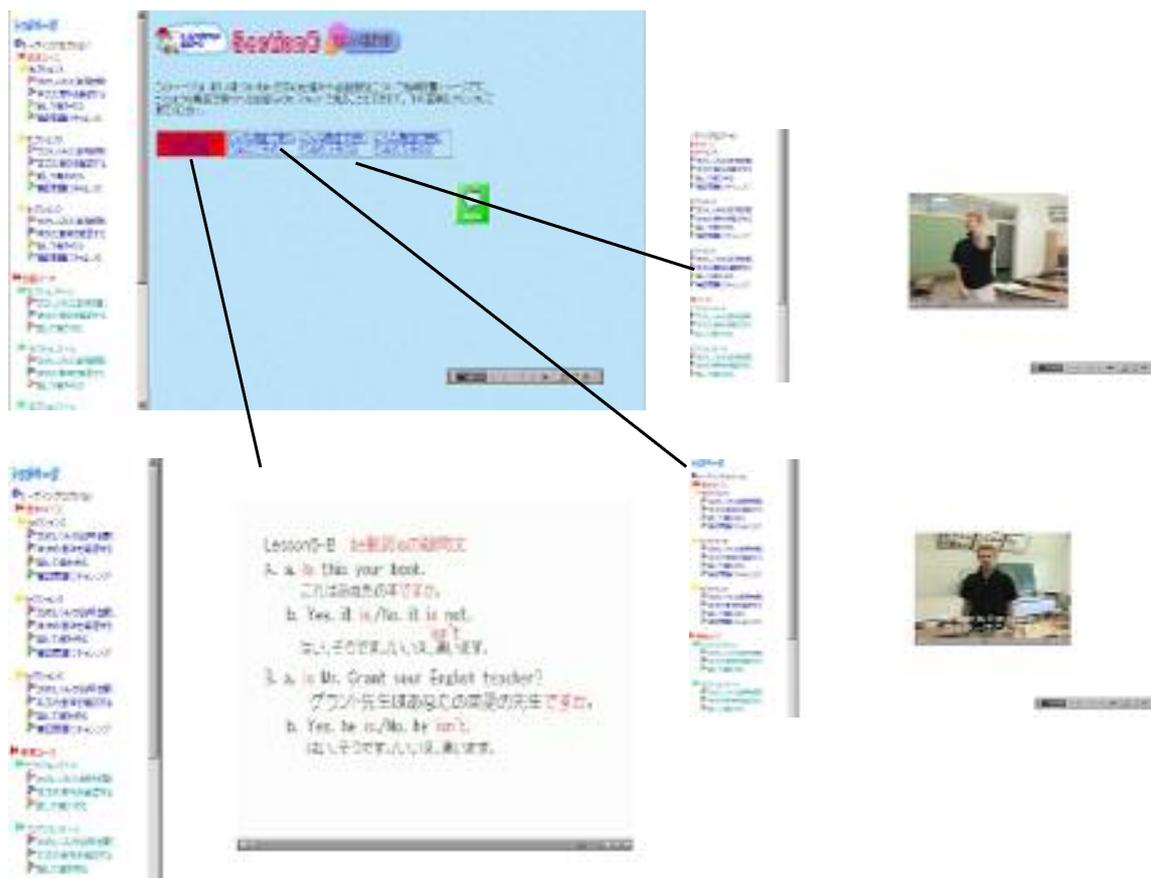


## 【リーディング・セクションの支援ページ】

### ◎「文のしくみの説明を聞く」ページ

新出の文のしくみや表現について、教師が板書（静止画）を使って解説するビデオ動画を見ることができる。全部や一部を繰り返し見たり聞いたりすることができ、静止することもできるため、ノートをとる際には画面を静止させて行なう。なお、実際にどのような場面で用いられる表現なのかを示したスキットをビデオ動画で視聴することもできる。

### 【「文のしくみの説明を聞く」ページ】

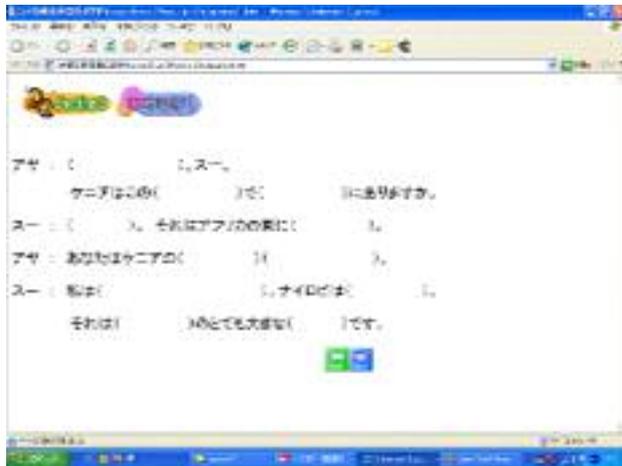


◎「本文の意味を確認する」ページ

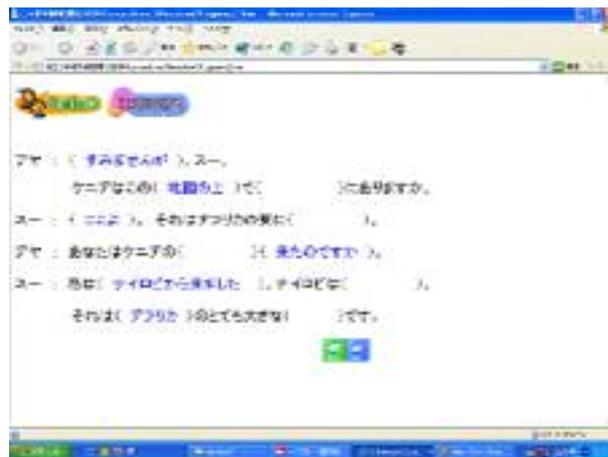
このページは、英文の意味を日本語で内容確認するページである。このページは3層に組まれている。1ページ目には3割程度の日本語が示される。2ページ目には6割程度の日本語が示され、3ページ目には完全な形で日本語の意味を確認することができる。

【「本文の意味を確認する」ページ】

1ページ



2ページ



3ページ



自分の理解にあわせて本文の内容を日本語で確認できます。

◎「話して確かめる」ページ

新しく学習した構文や会話表現を使って、話して確認できるように工夫した。クリックすると動き出すビデオ動画を利用し、ALT が学習者に話しかける。学習者はこれに答えて自分の理解の度合いを確認する。なお、答え方の例を示した「字幕あり」の動画と、「字幕なし」の動画が用意されており、学習者は自分の習熟度にあわせて会話練習することができる。また、動画を視聴しながらサウンドレコーダーで音声を録音すれば、映像とマッチした音声ファイルを作成することができ、これらを同時に動作させると、簡易な英会話ビデオができあがる。

【「話して確かめる」ページ】



左のページの画像をクリックすると、ALTが新しく学習した構文や会話表現を使って話しかけます。学習者は正しく答えられるかどうか確認します。字幕のあるものと字幕のないものを選択することができます。



字幕あり



字幕なし

◎「確認問題にチャレンジ」のページ

新しく学習した構文や、会話表現についての練習問題を解くページである。画面には練習問題が示されており、学習者は正しいと思う回答の番号をクリックする。正解すれば正解ページがあらわれるが、誤ると不正解ページがあらわれる。不正解ページには不正解の理由と、正しい解答の導き出し方が示される。

【「確認問題にチャレンジ」のページ】



練習問題を解くページです。学習者は正しいと思う記号を選び、クリックします。正しい答えを選ぶと、正解画面が出ますが、間違えた選択肢を選ぶと不正解画面出て、その理由や正しい解答の導き出し方の解説を読むことができます。

○正解の画面



○不正解の画面



## ②スピーキング・セッション

スピーキング・セッションでは、ビデオ動画を用意した。このビデオにはALTが出演し、ビデオを見ている学習者に向かって英語で話しかける。生徒はこの英語に適切な英語表現で答えて英会話を成立させる。ビデオ動画の長さは、おおむね20秒から40秒である。ビデオ動画は6種類用意し、それぞれの動画に「かんたん」「チャレンジ」の2つのレベルを用意した。「かんたん」が、リーディング・セッションの本文に近い表現を用いることで完成すること

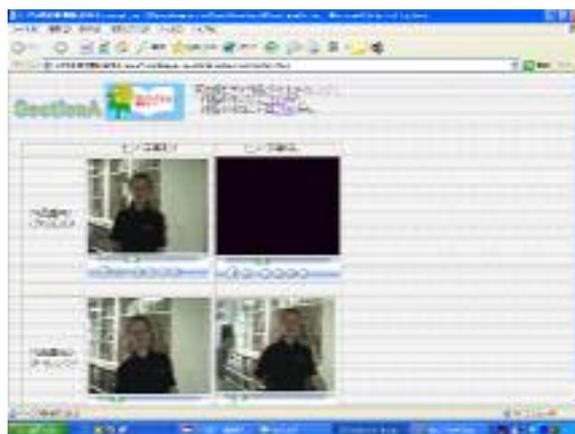
ができるのに対して、「チャレンジ」では自分なりに会話のつながぎを考えさせるため、会話の間の無音部分が長くなっている。なお、この2つのレベルのビデオには、字幕のあるヒントのためのビデオ動画が用意されており、学習者は字幕のあるビデオ動画を模範的な英会話ビデオ作品として参考にすることができるようになっている。

学習者は、自分の習熟の程度にあわせてこれらのビデオ動画選択して視聴し、支援ページの助けをかりながらオリジナル台本を作成する。台本を完成したら、英会話ビデオの作成に入る。ビデオ動画と同時にサウンドレコーダーの録音機能を作動させ、自分の英会話を録音しながら英会話の練習を繰り返す。学習の最終段階で自分の納得できた英会話の音声ファイルを共通フォルダに保存する。

教師はビデオ動画の映像と音声ファイルをミキシングし、英会話ビデオ作品として完成させ、発表用のページを作成して鑑賞会に備える。このセッションの学習において、教師はオリジナル台本のチェック行なう他、リーディング・セッションのページをヒントとして参照するよう助

言して英文作成の支援をしたり、作品づくりの活動において滞りがちな生徒には、声かけをしてやる気を引き出し、教師と一緒にやってみせることで活動への意欲を高めたりする。

《スピーキングセッションの学習ページ》



《オリジナル英会話ビデオ  
発表用のページ》



【スピーキング・セクションの支援ページ】

○「英会話ビデオ作品の作り方」のページ

学習支援教材とサウンドレコーダーを同時に活用する学習であることから、活動の流れや注意事項を書いたページを用意した。サウンドレコーダーの使用方法や、できあがった音声ファイルの扱い方なども記載されている。



○「便利な会話表現」のページ

英会話ビデオ作品を作る上で参考になる英会話表現を紹介したページである。扱う英語表現はすべてビデオで解説され、これらの表現が実際にどのような場面で使われる表現なのかを紹介したスキットビデオも見ることができる。



○「リーディング・セクション」のページ

スピーキング・セクションで扱われる表現のほとんどはリーディングセクションの文であるため、リーディング・セクションの学習画面や支援ページを活用することができる。

6 指導案（8時間）

英語科学習指導案（第1時間目）

平成16年10月20日(水)第3校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

学習支援教材の活用の仕方を知り、学習画面や支援ページを活用しながら、本文の英文の理解をすすめ、音読練習を行なう。※学習範囲：セクションA～B（基礎）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、自己評価カード①

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 学習ページ、支援ページの使い方を聞く。(20分)	○コンピュータの画面上の操作について、活動の順を追って説明することで、理解しやすいものにする。	一斉	
2 セクションごとに以下①～⑥の学習を繰り返す。(25分) ①モデルリーディングを聞く。 ②支援ページを使いながら英文の内容理解をすすめる。 ③自分の音読を録音し、音声ファイルとして保存する。 ④自分の音読とモデルリーディングを聞きくらべながら、音読をブラッシュアップする。 ⑤自分が納得できた音読を一つ選び、共通フォルダ保存する。 ⑥セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。	○コンピュータの操作についてどの生徒も操作を正しく行えることを確認する。  ○自分の音読はすべて個人フォルダに保存し、削除しないよう伝える。  ○活動が滞りがちな生徒には声掛けをしたり、一緒に音読してみせることにより活動を促す。  ○音読がすすんでいる生徒には、自己評価カードを記入し、次のセクションにすすむようアドバイスする。	個別	○モデルリーディングを聞いたり、自分の英語を録音して聞く活動に興味をもっている。 【アの①、②】 (B)モデルリーディングと自分の音読を繰り返し聞いている。 (A)気持ちや感情を込めて音読している。 (学習活動の観察、音読ファイル)
3 まとめ(5分) 本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。	○1時間の学習内容を振り返らせ、次回の授業のめあてを示す。	一斉	

英語科学習指導案（第2時間目）

平成16年10月22日(金)第3校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

学習支援教材の活用の仕方を知り、学習画面や支援ページを活用しながら本文の英文理解をすすめ、音読練習を行なう。

※学習範囲：セクションB～C（基礎）、セクションA（発展）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、自己評価カード①

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
<p>1 セクションごとに以下①～⑥の学習を繰り返す。（45分）</p> <p>①モデルリーディングを聞く。</p> <p>②支援ページを使いながら英文の内容理解をすすめる。</p> <p>③自分の音読を録音し、音声ファイルとして保存する。</p> <p>④自分の音読とモデルリーディングを聞きくらべながら、音読をブラッシュアップする。</p> <p>⑤自分が納得できた音読を一つ選び、共通フォルダ保存する。</p> <p>⑥セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。</p>	<p>○支援ページを有効に用いているかどうかを確認し、有効に活用するよう促す。</p> <p>○保存された音読ファイルを聞き、改善点についてアドバイスを与える。</p> <p>○進度の速い生徒には、発展コースに取り組むよう促す。</p> <p>○活動が滞りがちな生徒には声掛けをしたり、一緒に音読してみせることにより活動を促す。</p>	個別	<p>○なめらかに音読できる。</p> <p>【アの②③、イの②、ウの①、エの①②】。</p> <p>(B) つまることなく相手に分かるように音読できる。</p> <p>(A) 感情を込めて正しく音読できる。</p> <p>【ウの①】</p> <p>(学習活動の観察、音読ファイル)</p>
<p>2 まとめ（5分）</p> <p>本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。</p>	<p>○1時間の学習内容を振り返らせ、次回で本文理解や音読練習を終え発表に向けた準備に入ることを伝える。</p>	一斉	

英語科学習指導案（第3時間目）

平成16年10月25日(月)第3校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

学習支援教材の活用の仕方を知り、学習画面や支援ページを活用しながら本文の英文理解をすすめる、音読練習を行なう。

※学習範囲：セクションC（基礎）、セクションA～C（発展）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、自己評価カード①

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 活動についての説明を聞く。	○本時で英文の理解と音読練習を終え、本時の最後の一番良くできた音読を発表用に提出することを伝える。	一斉	
2 セクションごとに以下①～⑥の学習を繰り返す。（40分） ①モデルリーディングを聞く。 ②支援ページを使いながら英文の内容理解をすすめる。 ③自分の音読を録音し、音声ファイルとして保存する。 ④自分の音読とモデルリーディングを聞きくらべながら、音読をブラッシュアップする。 ⑤自分が納得できた音読を一つ選び、共通フォルダ保存する。 ⑥セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。	○支援ページを有効に用いているかどうかを確認し、有効に活用するよう促す。 ○保存された音読ファイルを聞き、改善点についてアドバイスを与える。 ○進度の遅い生徒には、セクションC（基礎）を時間内に終わられるよう、声かけしたり、音読練習に取り組むよう促す。 ○進度の速い生徒には、発展のセクションCまで学習が進むよう励ます。	個別	○なめらかに音読できる。 【アの②③、イの②、ウの①、エの①②】。 (B) つまることなく相手に分かるように音読できる。 (A) 感情を込めて正しく音読できる。 【ウの①】 (学習活動の観察、音読ファイル)
3 まとめ（10分） 一番良いと思う自分の音読ファイルを共通フォルダに保存し、本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。	○発表用の音読作品を共通フォルダに保存するよう伝え、次回は音読作品の発表会を行なうことを伝える。	一斉	

英語科学習指導案（第4時間目）

平成16年10月26日(火)第2校時  
 1年 指導者 笹 達一郎  
 ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

友達の音読作品を聞いたり、自分の音読作品を練習時の音読と聞き比べたりしながら、友達の作品の良さや自分の音読表現の向上を感じ取る。

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、アンケート

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 自分の発表用の音読と、最初に録音した音読とを聞き比べ、自分がどのような工夫ができたか、努力ができたかについてまとめる。(15分)	○発表用の音読が良くできていることを伝え、どういう工夫をしたのか、具体的に書くよう伝える。	一斉 個別	
2 発表用のウェブページを開き、友達の音読作品を聞きながら、工夫している点や努力している点などを書き留める。(25分)	○感想を書き留める回数は数回程度とし、感想を書くことよりもまず全員の音読を聞くよう伝える。	一斉 個別	○他の生徒の音読作品に興味をもって聞いている。 【アの①、ウの①、エの②、④】 (B) コメントを書くことができる。 (A) 良さを二つ以上見つけることができる。 (音読作品、自己評価カード)
3 まとめ(10分) 音読作品作り全体を振り返る。	○次の時間から始まる表現活動につながるよう、意欲が高まるような言葉遣いをする。	一斉	

英語科学習指導案（第5時間目）

平成16年10月27日(水)第3校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

スピーキング・セクションの学習支援教材の活用の仕方を知り、学習画面や支援ページを活用しながら、オリジナル台本作りと英会話練習を行なう。

※学習範囲：セクションA（基礎）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、ヒントカード、自己評価カード②

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 学習ページ、支援ページの使い方を聞く。(20分)	○コンピュータの画面上の操作について、活動の順を追って説明することで、理解しやすいものにする。	一斉	
2 セクションごとに以下①～⑤の学習を繰り返す。(25分)  ①ビデオ動画を視聴する。  ②支援ページを使ったり、教師と相談しながら会話メモを作成する。  ③動画を再生しながら音声を繰り返し録音し、ビデオ作品を作りあげる。作品を視聴しながら英会話をブラッシュアップする。  ④一番良くできたと思う会話の音声を共通フォルダに保存する。  ⑤セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。	○コンピュータの操作についてどの生徒も操作を正しく行えることを確認する。  ○机間支援してメモ作成のアドバイスをし、表現に工夫ができるようにする。  ○支援ページを有効に用いているかどうかを確認し、必要があればリーディングセクションの内容を復習するようにアドバイスする。	個別	○英会話ビデオづくりに興味を持っている。 【アの③、イの①②】 (B) ビデオ動画を繰り返し聞き、支援ページを活用して会話メモを作成しようとしている。 (A) 会話メモの表現を工夫しようとしている。 (学習活動の観察、会話メモ、音読ファイル)
3 まとめ(5分) 本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。	○1時間の学習内容を振り返らせ、次回の授業のめあてを示す。	一斉	

英語科学習指導案（第6時間目）

平成16年11月1日(月)第3校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

スピーキング・セクションの学習支援教材の活用しながら、オリジナル台本作りと英会話練習を行ない、オリジナル英会話ビデオの作成に取り組む。

※学習範囲：セクションA～C（基礎）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、ヒントカード、自己評価カード②

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
<p>1 セクションごとに以下①～⑤の学習を繰り返す。（45分）</p> <p>①ビデオ動画を視聴する。</p> <p>②支援ページを使ったり、教師と相談しながら会話メモを作成する。</p> <p>③動画を再生しながら音声を繰り返し録音し、ビデオ作品を作りあげる。作品を視聴しながら英会話をブラッシュアップする。</p> <p>④一番良くできたと思う会話の音声を共通フォルダに保存する。</p> <p>⑤セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。</p>	<p>○英文作成時に、表現の工夫しようとする気持ちをくみ取りながら正しい英文完成に導く。</p> <p>○英文作成に時間がかかっている生徒には、ヒントの文を活用したり、支援ページを参考にしよう助言する。</p> <p>○会話メモを使いながら繰り返し練習し、せりふが自然と出てくるまで、何度も繰り返し練習するよう励ます。</p> <p>○進度の速い生徒には、発展コースに取り組むよう促す。</p>	個別	<p>○自然な英語を話している。</p> <p>【アの②④、イの①②③、エの④】</p> <p>(B)ビデオ動画にあわせて英語を話している。</p> <p>(A)気持ちを込めて英語を話している。（学習活動の観察、会話メモ、音読ファイル）</p>
<p>2 まとめ（5分）</p> <p>本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。</p>	<p>○1時間の学習内容を振り返らせ、次回の授業のめあてを示す。また、次回で発表用の会話録音を終え、発表の準備をすることを伝える。</p>	一斉	

英語科学習指導案（第7時間目）

平成16年11月2日(火)第2校時  
1年 指導者 笹 達一郎  
ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

スピーキング・セクションの学習支援教材の活用しながら、オリジナル台本作りと英会話練習を行ない、オリジナル英会話ビデオを完成させる。

※学習範囲：セクションA～C（基礎）、セクションA（応用）

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、ヒントカード、自己評価カード②

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
<p>1 セクションごとに以下①～③の学習を繰り返す。（40分）</p> <p>①ビデオ動画を視聴する。</p> <p>②支援ページを使ったり、教師と相談しながら会話メモを作成する。</p> <p>③動画を再生しながら音声を繰り返し録音し、ビデオ作品を作りあげる。作品を視聴しながら英会話をブラッシュアップする。</p> <p>④一番良くできたと思う会話の音声を共通フォルダに保存する。</p> <p>⑤セクションが終わったら自己評価カードを記入し、提出して次のセクションにすすむ。</p>	<p>○英文作成時に、表現の工夫しようとする気持ちをくみ取りながら正しい英文完成に導く。</p> <p>○英文作成に時間がかかっている生徒には、ヒントの文を活用したり、支援ページを参考にするよう助言する。</p> <p>○会話メモを使いながら繰り返し練習し、せりふが自然と出てくるまで、何度も繰り返し練習するよう励ます。</p> <p>○進度の速い生徒には、発展コースに取り組むよう促す。</p>	個別	<p>○自然な英語を話している。</p> <p>【アの②④、イの①②③、エの④】</p> <p>(B)ビデオ動画にあわせて英語を話している。</p> <p>(A)気持ちを込めて英語を話している。（学習活動の観察、会話メモ、音読ファイル）</p>
<p>2 まとめ（10分）</p> <p>録音された会話の中で、最も良くできたと思う英会話を共通フォルダに保存し、本時の学習を終えたところまでについて自己評価カードに記入する。</p>	<p>○次回の授業で英会話ビデオの鑑賞会を行なうことを伝える。また、本時の学習内容を振り返らせ、次回の授業のめあてを示す。</p>	一斉	

英語科学習指導案（第8時間目）

平成16年11月4日(木)第4校時  
 1年 指導者 笹 達一郎  
 ALT グラント・バートン

(1) 本時のねらい

友達の英会話作品を聞いたり、自分の音読作品を発表する活動を通して、英語で表現する楽しみを感じ、英語で表現しようとする意欲を感じ取らせる。

(2) 準備 コンピュータ、教科書、ノート、コメントカード、アンケート

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 発表用のウェブページを開き、友達のオリジナル英会話ビデオ作品を視聴しながら、工夫している点や努力している点などを書き留める(35分)	○作品の英語が聞き取れない場合は、繰り返し聞くことができるようにする。  ○教師のコメントを聞くことで、活動への成就感を得られるようにする。	一斉 個別	○他の生徒の作品を理解することができる。 【アの①、ウの①】 (B) コメントを書くことができる。 (A) 良さを二つ以上見つけることができる。 (コメントカード、英会話ビデオ)
2 まとめ(15分) 英会話ビデオ作品作の取り組み全体を振り返る。	○活動を振り返りながら感想を書くことで、英語で表現する事の楽しさを味わえるようにする。	一斉	○英語で表現することの楽しさに気づいている。【アの①②③】 (B) 英語表現活動に楽しく取り組んでいる。 (A) 英語で表現する楽しさを言葉で表している。(コメントカード、アンケート)